

昔は鳥の小道、今は国道

——常陸大宮市国道293号線・伴睦峠はんぼくとう

日立市と栃木県足利市に至る国道293号線の最大の難所は常陸大宮市(旧美和村)と栃木県那珂川町(旧馬頭町)の県境でした。今では両県を結ぶ重要幹線道路として水戸方面から那須方面へ交通量も多い国道です。

江戸時代、水戸藩領だった旧馬頭町東部を含む茨城県北西部は、西の内紙に代表される和紙の一大産地で、和紙の集積地だった那須烏山市(旧烏山町)への人々の往来は盛んでした。しかし、鷺子山系をまたぐこの道は文字通りの山道。そこで迷わぬように、旧美和村側には道しるべとなる道標が立ててありました。そこには平仮名で「はとうからすやまとりのこみち」と書かれていたそうです。

あるとき、道に不案内な旅人がこの道標を見て「ハト(鳩)」「ウ(鶉)」「カラス(鳥)」「ヤマドリ(山鳥)」「の小道」と読み取ってしまったそうです。そのため、鳥専用の道と勘違いした旅人は戻ってしまったという逸話が残されました。



その後時代を経て、行政区分が茨城県と栃木県に別れても交通の難所として両県民にとっては道路整備が最大の課題となっていました。

昭和44年になってやっと、この道が国道に昇格。本格的な道路整備がなされることになりました。

当時、地域住民の悲願であった国道昇格を決定したのが大野伴睦という政治家でした。大野は岐阜県出身の自民党副総裁などを務めた政治家です。東海道新幹線の岐阜羽島駅の開設にも尽力した「政治は義理と人情」を掲げた人物でした。

茨城・栃木両県民の願いを受け入れた大野の功績を称え難所の峠を「伴睦峠」と命名。遠く岐阜県出身の政治家・大野伴睦の名前が後世に残されることになりました。

地元の人々は文字通り嬉しさのあまりスズメのように小躍りし「欣喜雀躍きんしせつやく」したことでしょう。

この道標は現在、常陸大宮市の道の駅「みわ★ふるさと館北斗星」の駐車場内に再建されています。

(参考文献)美和村史(美和村史編さん委員会)ほか



【問い合わせ】道の駅「みわ★ふるさと館北斗星」 TEL0295-58-3939
【所在地】常陸大宮市鷺子272
【アクセス】常磐自動車道那珂ICから国道118号経由、国道293号沿い約40分

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>